

地域再発見

Part 3



山形大学の学生が参加して行われた谷口銀山の保存活動



漆野地区の「蛍むす水路調査」

町の西部に広がる田園地帯。朴山、板橋、長野、谷口、漆野の5つの地区が西郷地域で、地域総合振興会議（会長・近岡榮一谷口地区区長）が地域づくりの母体になっています。

21世紀になっても夢を持って楽しく暮らしていける地域を願って「夢」と「希望」と「やる気」を込めた地域総合振興計画「西郷夢プラン21」を平成8年3月に策定しました。計画は、地域の人々が快適な生活環境・生産環境の中で、触れ合いを大切にし、お互いの立場を理解し力を合わせ、独自のアイデアと自主的な取り組みで、より良い地域社会を築き上げていくことを目指す「快適21づくり」、「ふれあい21づくり」、「ひらめき21づくり」の3つの柱からなっています。

夢めばえる西郷地域

廊になりました。また、旧谷口分校を利用した「谷口がっこそば」の活動は、先駆的な地域活動・村づくりの取り組みとして全国的に注目され、休日には大勢のお客さんで賑わっています。「プラン21」は策定から既に10年が経過し、新たな計画の策定に向けた活動が始まっています。新しい計画づくりでは、自分たちの住んでいる地域や地区をもう一度見つめ直してみ、そこから地域の魅力を再発見する必要があるということから、「地域学」「地元学」の手法を取り入れてようという、試みの取り組みも始まっています。

昨年8月に、県最上総合支庁農村計画課の職員を講師に迎え、振興会議メンバーの学習会を実施しました。また

昨年9月には、試みに漆野地区を対象に、山形大学人文学部による地域連携講座で、大学生の目で見えた印象や漆野の魅力について地域の人たちと語り合い、「蛍の学習会」や「高堂山登山」、「漆野いんげん」、「地域の神社」などたくさんの魅力が紹介され、「地域学」とはどんなものなのかを学びました。その成果もあって、今年から「蛍の学習会や観察会」が始まりました。また、谷口銀山の保全活動では、今年



種苗会社を研修視察

5月と7月に、坑道の測量や土砂の撤去作業に、山形大学の学生たちの若い力が参加してくれました。

山形大学

との連携による漆野と谷口銀山の取り組みにより、地域のもっている魅力の再発見を通しての新たな交流が始まり、地域の文化や環境を土台にした新たな「夢」へ向かって、一歩踏み出すことができました。

農業に熱心な地域柄から、新たな農産物の特産品化しようと挑戦を始める動きもあります。今年7月に開催した地域公民館大会で、「ニンニク」や「紫タマネギ」の栽培を始めてはどうかという提案がされ、9月には振興会議のメンバーが岩手県の種苗会社に研修視察を行くなど、ここにも「新しい夢」が芽生え始めてきています。

若い世代の主體的な参加が活動の中心になってきており、夢あふれる新しい振興計画の発表が楽しみです。

（今回は東郷地域です。）